

韓国の教育問題 「教育の過熱化」

レイ

今日は韓国の教育問題である「教育の過熱化」についてお話ししたいと思います。

韓国はたくさん勉強する、または、教育をたくさん受けさせる国として有名です。こういう現象は特に、大学受験と就職準備でよく見られます。韓国内で中高校生が夜遅くまで塾へ通ったり、小学生が一日3ヶ所以上の塾へ行ったり、高い課外授業を受けたりするのは普通なことです。親は自分の子供が将来、いい大学、いい会社に入るのに必須ともいえる英語の学習のため早期留学や英語タウンに金を惜しみません。こういう教育の過熱化のせいで、いくつかの問題が生じています。何年か前に韓国で「ガン父」という新しい言葉ができました。ガン父とは、英語教育のため他の家族はみんな外国へ出たが、お金を稼ぐため一人国に残って仕事をするお父さんのことをいいます。また、「高い私教育費率」やお金のある人はたくさん教育を受けて、そうではない人はそれに比べて、教育の量や質が劣るといって「教育での貧富の差」などの問題があります。

では、どうしてこういう問題が起こっているのでしょうか。その原因は、一流へのこだわりにあると思います。韓国には「子を育てるのが一番大きく大事な農事だ」という意味のことわざがあります。このことわざからも分るように、韓国は子供への親の期待がすごく大きいです。親は皆、自分の子供が将来幸せになってほしい、今よりいい生活をしてほしいと願います。その極普通の願いが大きくなって、結局「一流の人間」を育てる、という形となるのです。しかし、そう思っている親が一人や二人ではないので、お互いに競争するようになってしまうのです。一流の大学に進むには他の競争相手よりいい成績を収めなければならない、一流の会社に入るには他の人よりもっともっと高いスペックを持たなければならない、その中でも英語能力は当たり前のもので当然考えられているので、早期留学やガン父のような現象が起こっているわけです。

また、幼い頃からそういう教育を受けてきた子どもの中には本当に自分のしたいことや夢は考えず、ただ「親がそういうから」勉強をするケースも多いです。しかも、「競争に負けているかもしれない」、「疲れた」などのストレスで健康を崩したり、あげくに自殺を考え、本当にそうしてしまう生徒も少なくありません。

私は友達との協力より競争を先に学んでしまう「教育の過熱化」の解決のためには、一流の意味と教育のあり方をもう一度考える必要があると思います。確かに教育と勉強は誰よりも一番上の位置に立つためというあり方もあるいはありますが、本来は自分、または子どもの本当の夢のためにあるべきだと思うからです。自分のしたいことを見つけて、それを叶えるため頑張って勉強してやり遂げる。これが本当の一流ではないでしょうか。

今日は韓国の教育問題についてお話ししました。ご質問、ご意見などがありましたら、お願いします。